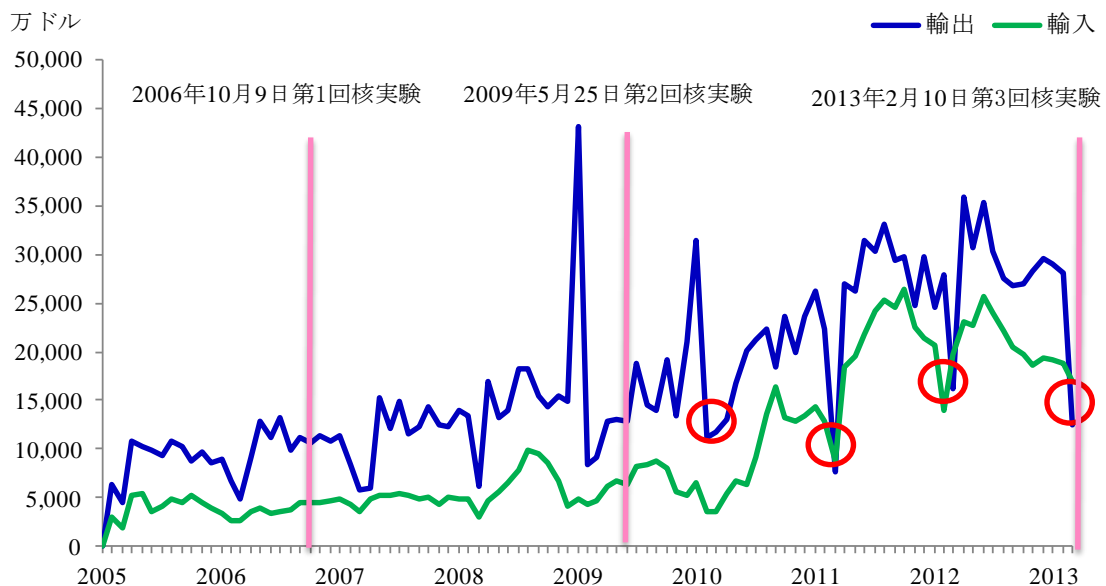


中国の対北朝鮮原油輸出中止について

株式会社エイジウム研究所

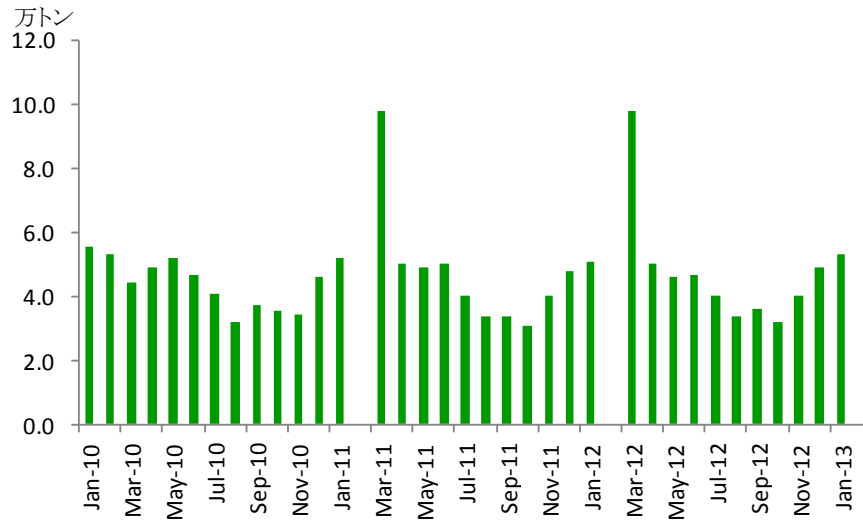
中国税関統計によると、2012年2月の中朝貿易額は2億9,562万ドルで、1月の4億7,042万ドルと比べると大幅に減少したが、これは2013年2月10日に北朝鮮が行った3回目の核実験とは無関係であると判断される。中朝貿易の各年度の月別統計を見ると、両国の貿易額は旧正月のある月（2013年は2月）には貿易業者の休みが多くなるため、1月に比べると減少するのが通例である。また、下のグラフでも見られるように、北朝鮮の第1回と第2回核実験の後の中朝貿易額は例年通りであり、他の国が北朝鮮に対する経済制裁を強化したために、中朝貿易が増えた傾向すら見られる。



(出所) 中国税関統計により作成

図1. 月別の中朝貿易と核実験の関係

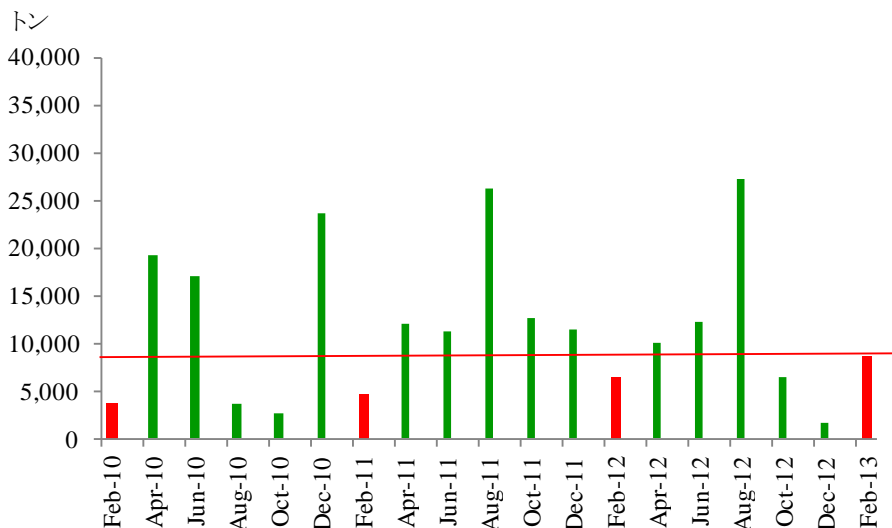
マスメディアの多くは、中国が2月に対北朝鮮経済制裁を行って、原油輸出を中止したと報道しているが、実際には、図2を見る限り、2011年と2012年も2月は中国から北朝鮮への原油輸出がゼロであったことが分かる。また、2005～2008年も同じく、2月の原油輸出がゼロであった。その原因は、両国の原油貿易が基本的に原油パイプライン経由で行われているが、パイプラインが既に老朽化し、定期的な保守が必要であるためである。さらに、2007年にはパイプラインの一部を交換するために、原油貿易が2か月間停止されたが、保守作業が終わると、原油輸送量は普段の倍に増えた。そうした点を考えると、3月現在の時点では、中国から北朝鮮への原油輸出の停止の原因を中国の対北朝鮮経済制裁に求めることは早計であろう。



(出所) 中国税関統計により作成

図2. 月別の中国の対北朝鮮原油輸出

一方、中国から北朝鮮への石油製品輸出については、2013年2月の輸出量が8,573トン(LPGを含まれていない)で、2012年同期の6,538トンより増えており、2013年1月の8,693トンからは僅かな減少に止まった。石油製品のうち、軽油の輸出が3,996トンで、1月の523トンからは大幅に増えた。また、ガソリンの輸出は4,398トン、重油は127トンであった。石油製品の輸出量を見る限り、中朝両国間の貿易には北朝鮮の核実験に起因すると考えられる大きな変化は未だ見られない(図3)。



(出所) 中国税関統計により作成

図3. 中国の対北朝鮮石油製品輸出

中国は北朝鮮にとって最大の石油(原油と石油製品)供給国であり、北朝鮮の石油消費

2013年3月27日

の 8 割以上は中国に依存していると言える。中国にとっては北朝鮮への石油輸出を中止することが経済制裁の武器になるが、中国の専門家は、中国政府は北朝鮮に対する政策を再検討しているものの、石油輸出を中止することは不可能であり、北朝鮮あるいは朝鮮半島の安定こそが中国の最大の国益になると指摘している。

平成 25 年 3 月 27 日